

授 業 科目名	【 G 】	実務における情報通信技術	区 分		開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
	【 H 】	実務における情報通信技術	その他参照			【 H 】 3		【 H 】 2
科目区分	基本科目：【 G・H 】教科及び教科の指導法に関する科目（-----情報）							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【 G 】 教員の免許状取得のための （-----情報必修）科目						
		【 H 】 教員の免許状取得のための （-----情報必修）科目						
施行規則に定める科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項： 「情報と職業」(高一種免情報)						
サブ タイトル	ICTで現場を進化させる実践戦略					担当者	見崎 浩一	
授業概要	【概要】	【概要】 情報通信技術（ICT）は社会やビジネス現場を根本から変革し、組織の仕組みやあり方に大きな影響を与えています。 本授業では、情報通信技術の基礎的・学問的な学びを踏まえ、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を先導する企業をテーマに、事例分析を行います。先端のICTをどのように導入し、成果につなげているのかをケーススタディとして考察・議論し、情報通信技術が生み出す新たな価値や社会全体の発展への可能性を多角的に学びます。 【実務経験を活かした授業】 新聞社で行政から民間企業までさまざまな取材経験がある教員が、実践的な情報通信技術（ICT）の活用例を取り上げ、学生たちと考えます。学生はビジネス現場等での情報通信技術の重要性や活用方法を具体的に理解し、将来のビジネスシーンでの活躍に向けた準備を行います。						
	【到達目標】	① 情報通信技術（ICT）の活用事例としてDX（デジタル・トランスフォーメーション）を先導する企業を分析し、成功要因と課題を多角的に考察できるようになる。 ② 情報通信技術がもたらす新たな価値や社会的影響を捉え、今後の学習やキャリアにおいてICTを積極的かつ主体的に活用する能力を育む。 ③ グループワークやディスカッション等、多様な視点を取り入れながら分析内容を整理し、わかりやすく発信できるプレゼンテーション力と協働スキルを身につける。						
履修条件	コンピュータ各論を履修していること。							
アクティブ ラーニングの 方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【○】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①		－ （当てはまらない）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②		○ （やや当てはまる）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③		◎ （よく当てはまる）					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④		－ （当てはまらない）					
他科目との 関連性	特にありません。							
教科書	授業中に、適宜、資料を配布する。							
参考書	野村総合研究所 IT基盤技術戦略室／NRIセキュアテクノロジーズ（2024年）『ITロードマップ 2024年版』 東洋経済新報社 亀田重幸/進藤圭著（2024年）『いちばんやさしいDXの教本 改訂2版 人気講師が教えるビジネスを変革するAI時代のIT戦略』（インプレスブック） アンド著（2018年）『ビジネスフレームワーク図鑑: すぐ使える問題解決・アイデア発想ツール70』（翔泳社）							
評価方法	授業ごとの成果物や課題等を点数化して、加算方式で評価します。 各授業の振り返りと学習の成果物（30％）、授業演習課題（40％）、アクティブラーニングへの参加姿勢等（30％）							
フィードバック 方法	Google Classroomを使用し、提出された課題についてのコメント等のフィードバックをします。							
評価基準	授業内容についてよく理解していると判断した学生にはその程度に応じてSまたはA、一部不十分な箇所がある学生についてはBまたはCとします。 授業内容への理解自体が不十分な学生については、その程度に応じてDまたはEとします。全欠席など評価不能の場合にはFとします。							

授 業	【 G 】 実務における情報通信技術	区 分	開講年次	【 G 】 3	単位数	【 G 】 2
科目名	【 H 】 実務における情報通信技術	その他参照		【 H 】 3		【 H 】 2
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、イントロダクション 情報通信技術とは					
	予習： シラバスを通読し、ニュース等でICTに関する話題を探す(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
2	企業分析の基礎 フレームワーク①					
	予習： SWOT分析、3C分析の概略を調べる(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
3	企業分析の基礎 フレームワーク②					
	予習： PEST分析、ファイブフォース分析の概略を調べる(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
4	デジタル時代のビジネス変革とDX					
	予習： 「DX銘柄」について調べる(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
5	ケーススタディ① スポーツ用品製造業:企業概要、DXの取り組み					
	予習： 当該企業の公式サイトを通読する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
6	ケーススタディ① スポーツ用品製造業:企業分析					
	予習： 当該企業のSWOT分析を思考する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
7	ケーススタディ① スポーツ用品製造業:分析まとめとプレゼンテーション					
	予習： 当該企業の分析結果を踏まえプレゼン資料を構想する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
8	ケーススタディ② 小売業:企業概要、DXの取り組み					
	予習： 当該企業の公式サイトを通読する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
9	ケーススタディ② 小売業:企業分析					
	予習： 当該企業のSWOT分析を思考する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
10	ケーススタディ② 小売業:分析まとめとプレゼンテーション					
	予習： 当該企業のプレゼン資料を構想する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
11	ケーススタディ③ 総合物流企業:企業概要、DXの取り組み、企業分析					
	予習： 当該企業の公式サイトを通読する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
12	ケーススタディ③ 総合物流企業:分析まとめとプレゼンテーション					
	予習： 当該企業のプレゼン資料を構想する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
13	ケーススタディ④ 総合電機メーカー:企業概要、DXの取り組み、企業分析					
	予習： 当該企業の公式サイトを通読する(60分程度) 復習： Google Classroomの復習課題に取り組む(120分程度)					
14	ケーススタディ④ 総合電機メーカー:分析まとめとプレゼンテーション					
	予習： 当該企業のプレゼン資料を構想する(60分程度) 復習： 次回テーマについて考えを発表できるよう準備する(120分程度)					
15	事例まとめ:情報通信技術の未来像					
	予習： 4企業事例の共通点、相違点を整理する(60分程度) 復習： 授業テーマについて最終レポートとして提出する(120分程度)					
その他	GoogleClassroomやGoogleフォーム等を活用します。 ※G・Hカリ:法【選択】スポ【選択】情【選択必修(E)】					